

障害者は健常者から見えた「障害を持った人」として定義されているものであり、障害者とは健常者の視点で造られているとも言えるのではないのでしょうか。

現在の社会は健常者からの視点で造られた環境ですが、誰にとっても暮らしやすい社会環境とは言えないと思います。しかし、健常者であっても、子供と大人と高齢者であっても暮らしやすさは個別に違います。共生社会の実現は全ての人々が同じ社会環境を共有した上で、生活の充実感が得られていることにあると考えます。

私が考える精神障害者にとっての共生社会（誰にでも暮らしやすい社会）を3つの切り口を通してお話したいと思います。

- 「ストレスに強い社会？は脆くて弱い社会」真のストレス脆弱性
- 「絶望から希望への転換は誰にでもある」リカバリーについて
- 「精神障害があっても街で暮らせる社会とは」隔離収容の終焉

障害は「人」が造っている。誰にでも暮らしやすい街も「人」が造る。

障害は「人と人の中にある。」障害は「物にも心にもある。」

障害は「誰もが暮らしやすい優しい街づくり」を実現するためのエッセンスを教えてください。